

クラブ紹介

童謡・唱歌の学校

童謡・唱歌の学校

大西 厚美

私たちのグループ童謡・唱歌の学校が「コールゆう」の先生方をお迎えし誕生したのは、平成十八年六月です。あつという間に早六年半が経ち、今年の夏には満七年を迎えようとしています。誕生した翌年の三月三日に稲美町文化会館コスモホールで童謡・唱歌の祭典が開催され、町外での演奏会に全員揃って初ステージを踏みました。また、十一月十日にはエルデホールにて童謡・唱歌・抒情歌の旅と題して『日本の歌』一〇一曲マラソンに参加出演し、二回目のステージに立つ事が出来ました。

ラブ春の発表会に参加以来毎年二つのステージに立たせて頂いています。ところが昨年は思いがけなくも、五月末に町老人会総会のオーブニングに我がクラブに歌って欲しいとのお声が掛かり、また九月二十一日には兵庫県公館で県老人クラブ連合会主催の平成二十四年度「兵庫県高齢者の集い」のセレモニーに参加出演依頼を頂き、歌わせて頂く機会に恵まれました。閉会時には被災地福島からお見え下さった方々と一緒にステージで「ふるさと」を歌い、本当に幸福な時間を過ごしました。

さて、私たちのクラブの練習は毎月第一と第三土曜日の十時から十一時三十分迄文化センター小ホールで行っております。発足時からのメンバーの人数も増え、現在在籍者は五十名で、集まりの良い時は四十数名で、先生のご指導のもと、和やかな雰囲気の中、ストレッチで体をほぐした後、発声練習、歌うという喜びを体感し、あつと言う間に一時間半が経ちます。

在籍者の中には、両親や主人の介護、またお孫さんの子守、他の趣味や家の都合、体調不良等で長期欠席される方も少なくありません。が、三か月また半年近くお休みされても

戻って来られ、気軽に練習が出来る憩いの場となっています。あなたも一緒に歌いましょう。お待ちしています。お問い合わせは文化センター窓口までお願いいたします。



学びは喜び

わかった！は感動

パソコン遊悠サークル

月の第一第三水曜日のお昼過ぎになると、フワーツと木の香りが漂う真新しい県民交流広場八千種にノートパソコンを持って会員が集まってきます。指導をしてくださる西村展般先生は提示用のプロジェクター、スクリーン、パソコンなどセッティング済で待っていてくださいます。

電源のオン・オフの仕方から手ほどきを受けて始まったサークルですが早や二年が過ぎました。サークルですから「まずは楽しく、仲良く、学びあう」が合言葉でしょうか。「誰が生徒か先生か」と、とても賑やかなうちに二時間があつという間に過ぎてしまいます。

昨秋にはデジカメを持って神戸花鳥園へ写真撮影の現地実践講座に出かけました。「こんなきれいな写真が撮れたの初めて!!」と感動もひとしおです。さっそく教室で写真加工や取り込みの勉強につなげていきました。

たくさんさんの機能、いろんな活用方



法を持っているパソコンです。あれもこれもと学びたいことがいっぱいです。その分先生も大変です。それぞれが違った機種のパソコンを持ち込むので一斉指導ができません。個人のレベルもまちまちでなおさらです。根気よく何回でも教えてくださる先生と、わかったらわからない人に教えあう仲間がいます。

『八千種研修センターまつり』では揭示用のポスターと配布するプログラム作成にかかわり、年賀状作りでは自分らしさ、自分の夢を載せた作品ができました。いよいよ今年は念願のインターネットに挑戦です。いくつになっても学ぶことを楽しんでいる十七人の仲間です。

楽しく・面白く

津軽三味線 吹弾

グループ名は、尺八を“吹く”と三味線を“弾く”で“吹弾”としました。「楽しく・面白く」をモットーに、日々稽古に励んでいます。また、私たちメンバーだけでなく、聞いていただく皆様にも楽しんでいただきたいと、津軽の民謡にこだわらず、全国の民謡・歌謡曲・童謡など色々なジャンルに挑戦しています。

公民館活動として昨年よりお世話になっていますが、その傍ら年間10回程度の各種イベントや老人施設への慰問にも積極的に参加しています。津軽三味線は和楽器の中でも高価というイメージがありますが、そうでもありません。楽器をお持ちでない方もレンタルで用意出来ますのでお気軽にご参加ください。皆で音色を奏で迫力ある音を楽しみましょう。興味のある方は一度お立ち寄りください。

場所 福崎町文化センター
時間 毎週土曜日11時～
対象 小学校高学年～

(老若男女問わず)



短歌の森

柳田國男生誕の地福崎町辻川は氏が幼少のころに遊んだ「うぶすなの森」鈴の森神社と辻川山、大庄屋三木家は書籍を読みふけたところでのちの学問につづく多くの礎を築いた場所です。後年ふるさとの想い出を多くの歌に詠んでいます。また、ご兄弟の井上通泰も史学に造詣が深く、歌人としても著名です。文化協会ではお二人を偲んで山桃忌奉賛短歌祭を開催しています。

平成二十四年度は第二十七回を迎え、六月末日まで公募し寄せられた短歌は二百六十七首にのぼり、短歌祭当日の八月四日には入選発表・表彰、朗詠、選評が行なわれました。最高位の賞「通泰賞」を受賞された詠歌を紹介します。

一輪車に乗りたる少女傘ひろげ

飛びたちそいな初夏の路地裏

例年「通泰賞」受賞詠歌は、「うぶすなの森」鈴の森神社と辻川山の一部を「短歌の森」と称して、ここに歴代の詠歌と共に披露・展示しています。

